

「線状降水帯」に詳しくなろう

—平成29年7月九州北部豪雨をもたらした、その正体—

2017年12月17日(日)

14:45～16:30 (受付:14:30～)

会場:TKP博多駅筑紫口ビジネスセンター901号室 定員 30名(下の要領でお申し込みください)
(博多駅筑紫口から徒歩3分 ユーコービル9階)

主催 日本気象学会九州支部 (tel 092-725-3614)
福岡管区气象台
日本気象予報士会西部支部



ゲスト:川野哲也さん

九州大学大学院理学研究院
地球惑星科学部門 助教



案内人:栗原めぐみさん

気象予報士
RKK熊本放送
気象キャスター

➤暖候期、特に梅雨期に毎年のように日本各地で集中豪雨が発生する。本年7月5日から6日かけて福岡県と大分県を中心とした九州北部地方に甚大な被害を引き起こした平成29年7月九州北部豪雨は記憶に新しい。

➤このような集中豪雨をもたらす現象として「線状降水帯」という言葉が近年マスコミなどでも使われるようになってきたが、平成29年7月九州北部豪雨もこの線状降水帯によってもたらされたことが指摘されている。

➤線状降水帯という言葉は2014年8月の広島豪雨以降に頻繁に用いられるようになったようである(津口 2016)が、現時点では線状降水帯の厳密な定義はない。文字通り「線状になった降水域」ではあるが、その中でも特に「同じ場所に長時間停滞し、局所的に大雨をもたらす降水域」のことを指している。

➤今回の気象サイエンスカフェでは、このような線状降水帯の形態と発生環境場についての最新の知見を紹介しながら、集中豪雨をもたらす線状降水帯の正体に迫りたい。



申し込み方法 (定員になり次第、受付終了)

詳しくはこちら <http://msj-kyushu.jp/>

日本気象学会九州支部事務局(福岡管区气象台 防災調査課)へ

メールまたはFAXで参加者全員のご氏名、代表者連絡先(電話番号orメールアドレス)、差し支えなければ所属をお知らせください。

メール info@msj-kyushu.jp FAX 092-725-3163